

1 主題名 友情の絆 内容項目2-(3)信頼友情・男女の協力

2 資料名 「友達だから」(出典 彩の国の道徳 「夢にむかって」高学年 埼玉県教育委員会)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、高学年の内容項目2-(3)「互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲良く協力し助け合う。」ことをねらいとしている。

この内容項目は、低学年の内容項目2-(3)「友達と仲よくし、助け合う。」、中学年の内容項目2-(3)「友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。」を経て、高学年の内容項目につながってきている。そして、さらに、中学校の内容項目2-(3)「友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。」へと発展していく。

この時期になると、今まで以上に友達関係を意識し、仲のよい友達との絆を深めたり、趣味や嗜好を同じくする閉鎖的な仲間集団を形成したりする傾向が見られるようになる。そのため、孤独感や疎外感を感じたり、友達関係に悩みや不安を抱いたりすることがある。そこで、健全な友達関係を育てていくことがより一層大切となってくる。友達同士の信頼の下に、協力して学び合う活動を通して互いに磨き合い、高め合える真の友情を育てていくことが重要である。

また、第二次性徴期を迎え、異性に対する意識が、これまでとは微妙に変化する時期でもある。男女間の在り方は同性間におけるものと同様、互いの人格の尊重を基盤とする。異性に対しても、信頼を基に、正しい理解と友情を育て、協力して助け合っていこうと態度を育成していきたい。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、友達と仲良くしたり、協力したりすることの大切さについて、知識としては、十分分かっている。しかしながら、相手の気持ちを思いやれない言動をとったり、自己中心的な行動に走ったりする姿が時として見られる。そこで、年度当初、「HAND IN HAND」～心はひとつ～を学年スローガンとして掲げ、これまで学年、学級が一丸となってさまざまなことに取り組んできた。その結果、林間学校におけるキャンプファイヤー、運動会における組体操や20人21脚走では、互いに理解し、信じて、助け合う様子が見られた。また、そうすることの楽しさや喜びを肌で感じてきた。

児童に行った意識調査は以下のものであった。(複数回答可)

あなたには、「本当の友達」と思える人がいますか。		
はい 35人	いいえ 3人	わからない 1人
「本当の友達」とは、どんな友達のことだと思いますか。		
自分の気持ちを分かってくれる…9人	信じられる…8人	仲良くしてくれる…8人
いけないことをしたら注意してくれる…8人	助け合える…7人	やさしい…6人
友達と強い絆でつながるためには、どんなことが大切だと思いますか。		
思いやり…9人	お互いのことを分かり合える…7人	仲良くする…6人
助け合い…5人	信じ合う…4人	何でも言い合える…3人
		良いところを見つけ合う…2人

アンケートの結果、学級のほとんどの児童が「本当の友達」と思える人がいると思っていることが分かった。また、「本当の友達」とは、自分のことを理解してくれたり、相手のことを信頼できたり、協力し合える友達ととらえていることも分かった。単に優しいだけでなく、自分のことを真剣に考え、時には注意してくれることを求めていることも分かった。さらに、思いやり、相互理解、信頼、協力といったことが、友達との絆を深め、望ましい友達関係を築くために大切であると考えていることも明らかとなった。

そこで、集団における自分の役割の自覚が進み、相手の身になって思いやる共感的能力が発達し、共によりよく生きようとしてくるこの時期に、本主題を取り上げることは、たいへん意義深いものと考えられる。本時では、相手の気持ちや立場を思いやり、友達を信頼して、共に高め合うことの大切さに気づかせたい。

(3) 資料について

本資料は、学年交流会を開くことになり、仲良しの友達が家の事情から練習に出られなくなることから相手の立場に立って、真の友情が芽生える話である。

主人公のさつきたちは、学年交流会で劇をすることになった。ところが仲良しのみゆきが家の事情から練習に出られなくなり、クラスの劇を成功させたい思いの陽子や和美はそんなみゆきに無理して出なくていいと告げる。その考えになかなか賛成できないさつきは、思い切ってみゆきに手伝ってくれるように言うことから本当の友達について気づいていく。

練習に参加できないみゆきに対する不満な気持ちに共感できるようにし、葛藤するさつきの心情に迫り、やがて本当の友達というものに気づいていく結末に目を向けるように話し合っていきたい。

4 研修主題とのかかわりと他の教育活動等との関連

「生きる力」をはぐくむ小中一貫教育の推進
 人とかかわりを大切にし、共によりよく生きようとする子どもの育成
 (道徳教育を通して)

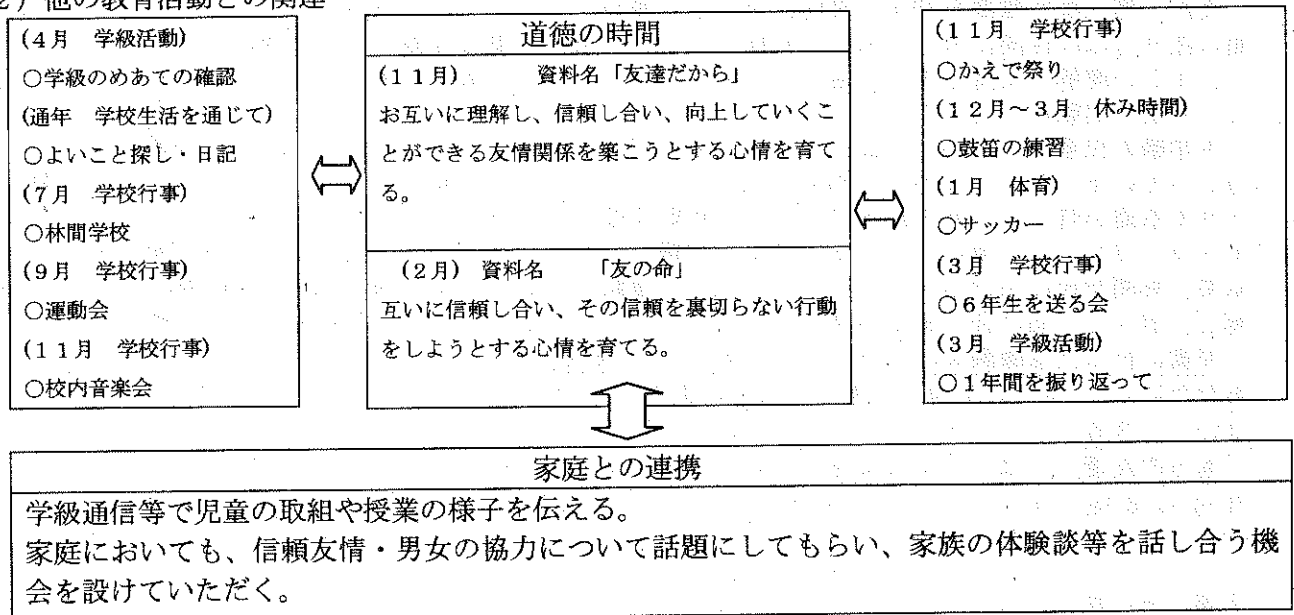
(1) 研修主題とのかかわり

本時では、人とかかわりの中で欠かせない「信頼友情」を育てていく観点から、お互いに理解し合い、ともに高め合えるような真の友情に気づかせたい。

児童一人一人に考えを持たせる工夫として、ペアやグループによる話し合いを取り入れる。それにより、少人数の中で自分の思いをしっかりと表現させたい。

また、よりよく生きていこうとする実践意欲につなげる工夫として、終末では、林間学校や運動会の体験を取り上げることで、これまで積み上げてきた信頼友情に気づかせ、これからも、互いに認め合い、協力し合っている児童の育成を目指していきたい。

(2) 他の教育活動との関連



5 本時のねらい

お互いに理解し、信頼し合い、向上していくことができる友情関係を築こうとする心情を育てる。

6 学習指導過程

段階	学習活動◎主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点 ☆◇評価【評価方法】	時間 資料
導 入	1 友情についての友達の考えを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを分かってくれる友達がいるとうれしいな。 ・本当の友達って、どんな友達なんだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前のアンケート結果を提示し、自分や友達の考え方を確認させたり、ねらいとする道徳的価値についての方向付けをしたりする。 ◇ねらいへの関心を持たせる支援ができたか。 	4

2 資料について条件・状況を知り、教師の範読を聞く。

登場人物 さつき(主人公) みゆき(相手)
 条件・状況 5年生になって組がえ。学年交流会で劇をやる。
 みんながはりきって練習するが、みゆきは、家の用事で途中で帰ってしまう。
 その日から練習を時々休む。

・話し合いの時間を確保するため、条件、状況把握を丁寧に行う。
 ・児童の感想を大切に柱立てしていく。
 ◇児童が話の内容や状況をおさえられるような資料渡しの工夫ができたか。
 ☆心に残った場面を見つけ、話し合おうとする意欲を高めることができたか。
【観察・発表】

とらえる

3 主人公の心の内について話し合う。
 (1)陽子や和美の話聞き、仲よしだったみゆきに不満を持ち始めたさつきはどんな気持ちだったでしょうか。

・練習に出ないなんて一体どうしたのかしら。
 ・みんながそろわないと練習にならないわ。
 ・みんなだって、それぞれ用事があるのに。
 ・みんな、はりきっているのに協力できないのは、おかしい。
 ・劇を成功させなければならぬ。

・仲よしだったみゆきに不満を持ち始めたさつきの気持ちに十分共感させる。
 ☆みゆきに不満を持ち始めたさつきの気持ちに共感することができたか。
【観察・発表】

(2)みゆきのために話し合っている陽子や和美たちの意見を聞いているさつきはどんな気持ちでいるのでしょうか。

・家のことが大変なら、仕方がないのかな。
 ・どうしよう。
 ・仲間はずれにするように気が引けるな。
 ・みゆきさんは、何をしたいのかな。
 ・劇に出ないことがみゆきさんのためかな。

・劇を成功させたい陽子や和美の考えとみゆきの気持ちを考えるさつきの心の葛藤をとらえ、じっくり話し合わせる。
 ・一人一人に考えを持たせるため、ペアやグループによる話し合いの時間を確保する。さつきの複雑な思いを浮き彫りにしていく。
 ☆さつきの複雑な思いについて、深く考えることができたか。
【観察・発表】

(3)「本当の友達だから・・・」の言葉には、どんな思いがこめられているのでしょうか。

・みゆきさんだって、一緒にやりたいんだもんね。
 ・私は、みゆきさんの気持ちが分かったわ。
 ・クラスみんなでやらないと意味がないよ。
 ・みゆきさんの気持ちを生かしたい。
 ・私がみゆきさんを救ってやらなければいけない。
 ・みゆきさんの気持ちを分かってあげられるのは、私だけだ。

・「本当の友達・・・」に込められた友への思いと勇気から、真の友情について考えを深めていく。
 ☆真の友情について、深く考えることができたか。
【観察・発表】

展

開

深める

	見つめる	4 これまでの生活を振り返る。 ・今日の授業で、学んだことや自分の生活を振り返り、プリントに書きましよう。	・困っていたときに自分のことのように心配してくれた友達がいて本当によかった。 ・相手の気持ちを真剣に考えて、これから学校生活を過ごしていきたいな。	・自分を振り返らせ、これからの実践化に結び付けられるようにする。 ☆これからの自分の生活において、相手の気持ちを考えて前向きに乗り越えることの大切さを理解することができたか。 【観察・プリント】	8
終末	あたためる	5 教師の話聞く。 ・先生が大切にしている言葉を贈ります。 「それでも信じてる 僕らは信じてる この手と手に溢れ出す力を つないだ手と手に生まれる力を」 ・歌を歌う。 「それでも信じてる」	・林間学校のキャンプファイヤーは、みんなの心が一つになった瞬間だったね。 ・組体操、みんなの力を合わせて、成功させた。	・林間学校や運動会の時の写真を見せ、これまでの生活を見つめ、今後の実践への意欲化を図る。 ・言葉をしおりに書き、それを一人一人に手渡すことにより、印象深くまとめる。	5しおり

7 評価の観点

☆さつきの親友として自分の在り方に気づいていく心情について、深く考えることができたか。

【発言・観察】

◇導入や終末における資料提示の工夫は友達の在り方について考えを高めさせる上で効果的であったか。

【発言・観察】

8 板書計画

